

富士河口湖町立 教育センターだより

No.17



平成26年2月7日 文責 高尾久美子

日々危機感をもって！食物アレルギー研修会

1月29日（水）、教育センター・教育委員会主催で行われた『食物アレルギー・緊急時の対応研修会』は、出席して下さった先生方に大好評でした。

講師の杉山剛先生（山梨大学医学部附属病院小児科）のお話は、聞きたい所を端的に話して下さり大変分かりやすかったです。まず、平成24年東京都調布市のアナフィラキシー・ショックで亡くなった児童の事故を取り上げ、その時の先生方の対応や児童の様子を説明して下さいました。児童が「気持ち悪い」と訴えてからわずか14分で心肺停止になりました。その間、先生方は一生懸命対応していました。しかし、尊い命が亡くなってしまったのです。



では、これから私たちは、どのように対応していけばいいのかをここで学ぶことができました。

アナフィラキシーとは、アレルギー症状が複数の臓器に現れた状態を言います。さらに血圧が下がって、意識がもうろうとした症状が見られたときは、アナフィラキシー・ショックといって、起こればできるだけ早く適切な処置や治療をしないと生命に危険が生じます。ですからアレルギー症状かもしれないと思ったら即、用意してある薬を内服する必要があります。アナフィラキシーをショック状態に絶対にさせないことが最も大切だそうです。また、具合が悪くなって「トイレに行きたい」「気持ちが悪い」「おなかが痛い」と言ったらこれは、アナフィラキシーの重要なサインだそうです。そのサインを見逃さず、あわてず行動へ移すことです。杉山先生は「大事なことは、アナフィラキシー症状が起これば迷わずに内服薬とエピペンを使用するようにして下さい。」と強く訴えていました。

この研修では、エピペントレーナーを使って、右写真のように打つ練習をしました。実際のエピペンの針は、インフルエンザの注射器の大きさの約2倍近くはあり、服の上からでも打てます。一発勝負です。勇気が要ります。町内の学校では、使用されたという報告はありませんが、いつどこで起こるのか分かりません。ないことを願っていますが、ここでの研修を生かしていきたいと思いました。



研修後、多くの先生方が、「エピペンの講習会を学校でも行う必要があると感じた。」「改めてアレルギーの怖さを知った。実際にエピペンを使って研修できて本当によかった。」「何回かアレルギーの研修を受けているが、今回、より理解が深まった。」「何回受けてもいい研修です。全ての職員や保護者に聞かせたい。」と感想に書いていました。

これから保・小・中の先生方の連携と共に、保護者や子どもたちともよく話し合っていくことも大切です。また、このような事故が起こらないように、さらなる研修を積み重ね、日々危機感をもって過ごしていかなければと強く感じました。